

釜石市観光振興ビジョン体系図

～観光を通じた震災復興の実現～

住まう誇りを取り戻す / 人の繋がりからの移住の増大 / 滞在交流型観光の創造

かまいしオープン・フィールド・ミュージアム

世界遺産を伴う東北で唯一の市内全域型ミュージアム
～時代に先駆け 挑戦し続ける釜石の体験～

交通網整備と広域連携

広報活動の強化

活動を継続的に支える
人材育成

地域DMO設立

サステナブルツーリズム
と国際管理評価基準

3つの実践エリア

4つの基本方針

滞在交流型観光の創出
滞在プランの創出と多
様な宿泊施設の提供

マーケティング分析
データ分析に基づく戦
略的な取組

域内交流の拡大
地区を超えた市民の交
流の輪を広げる

国際化、多様性の受入
RWC後の国際化、多
様化対応の継続発展

3つの基本理念

くらし
市民が釜石の生活文化を再認
識し広く体験機会を提供

まなび
市民が地域を学び、住まう誇り・
宝を発掘し学ぶ機会を提供

つながり
地域をつなぐルート、人のつ
ながりにより来訪者を拡大

釜石の特徴

釜石を取り巻く好機

- ・ RWC 2019の開催
- ・ 橋野鉄鉱山の世界遺産登録
- ・ 縦横の高規格幹線道路の整備
- ・ J R 山田線の復旧と三陸鉄道移管
- ・ 「観光立国」が国の戦略課題に
- ・ アジア新興国の経済成長 etc.

釜石の強み

- ・ 三陸沿岸最大の宿泊収容力
- ・ ラグビーによる知名度
- ・ オープンシティの市民気質
- ・ 産業都市としての歴史と産業遺産群
- ・ 意欲的な観光人材
- ・ 海産物に限らない食資源 etc.

成果測定指標

観光地域づくり（平成32年度）

- 誇りを持つ市民の割合
- 人を呼び込もうとする市民の割合
- 宿泊数
- 体験プログラム参加者数 等

観光による産業育成（平成38年度）

- 地元調達率
- 客単価向上
- 正規雇用率向上
- 給与水準向上 等

3つの重点プロジェクト

中心市街地の活性化

フロントプロジェクト1
フロントプロジェクト3
回遊性の向上

世界遺産と産業遺産観光

橋野鉄鉱山と鶴住居川流域
釜石鉱山と周辺
アクセス向上支援

RWCを活用した地域再生

スポーツツーリズム
国際大会の誘致
屋外音楽イベント

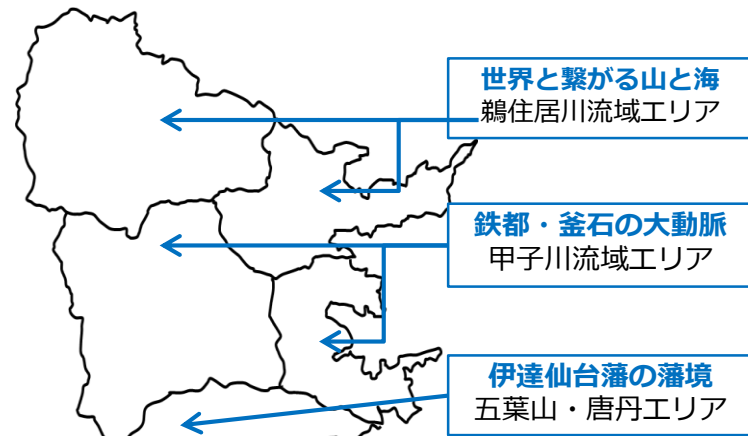
プロジェクト成果としての経済成長

宿泊需要の
拡大

物産・飲食の
充実

地域製品の
ブランド化

●取組を進める3つのエリア



成長し続けるミュージアム
ガイドが付かなくても、いつでも誰でも自由に巡り学べる環境を作り出します。

特別展終了後に常設展に加えていきます。

鶴住居川流域エリア	●	●	●	●	●	●	●	●	●
甲子川流域エリア	●	●	●	●	●	●	●	●	●
五葉山・唐丹エリア	●	●	●	●	●	●	●	●	●

〔特別展〕
水、森、鉄などテーマを絞って開催します。開催のために、生活応援センター等に地域拠点（サテライト）が軸となって定期的に、テーマを絞って「住まう誇り（地域の宝）」を新たに発掘します。

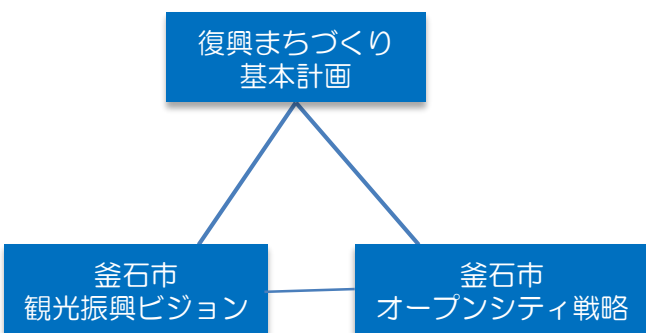
●地域を見つめ直し、釜石の宝を発信

自然と共生してきた釜石人の「住まう誇り～かまいしの宝」を体験していただくことを通じて、釜石全体を屋根のない博物館と見立て、住まう人がガイド役として活躍する地域を目指します。
「釜石駅からFP3エリアまで」といった観光資源に一定のまとまりをもつ地域、もしくは産業遺産など複数エリアにまたがるが同一カテゴリーの観光資源をグループ化し、コースを仕立てることで、釜石市内の複数エリアの観光回遊性を向上します。

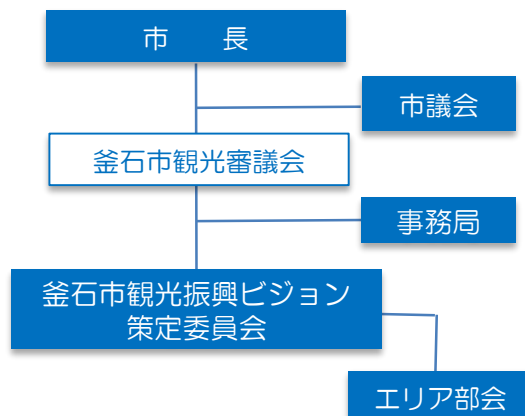
●オープンフィールドミュージアムのターゲット

市民、近隣住民、各種交通手段で訪れる内陸部及び三陸沿岸エリア住民に加え、仙台や宮城沿岸エリア、更に県央エリアを訪れる方を釜石へ迎え入れます。そこに首都圏や台湾をはじめとするアジア圏からの来訪者を加えます。

●観光振興ビジョンの位置付け



●観光振興ビジョン策定・推進体制図



釜石オープンフィールドミュージアム構想

～ 観光を通じた震災復興を目指して ～

計画期間：平成29年度～平成38年度

